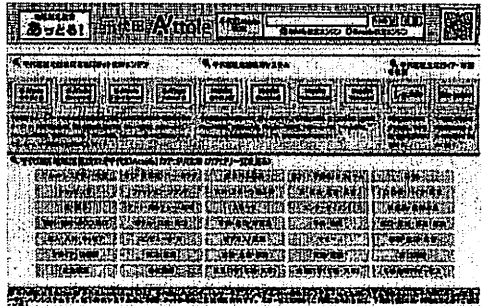


つくばマルチメディア



機能を強化するのは、同社が運営している地域限定の検索サイト「Attotole(アットル)」。登録済みの情報をグループを使って検索できる仕組みを取り入れることで、検索スピードを向上させる。あわせてヤフー地図の検索システムも利用できるように改良を施し、例えば、検索した飲食店の位置をより詳細な地図に示せるようにした。

つくばエクスプレス(TX)の開通で、東京とつくば市が最短四十五分で行けるようになったことから、観光客やビジネス客などによる情報検索に対する需要が増えたことに対応して、まず二十三区の検索機能を強化した。

北関東道の開通で茨城県と栃木県のアクセスが向上したことから、栃木県版(登録数は計約四千三百)と工学部の教員らが研究を進めてきた。三月に農学部内に新たな研究拠点が完成したこともあり、外部と連携して研究会を作って実用化に向けた本格的な研究を始めることになった。

農学部の敷地や阿見町の耕作放棄地でスイー

労働局 今春、求人減響き95.5%

就職した高校生は男子が前年比三・四割減の二千八百九人、女子は一〇・九割減の千八百七十二人だった。

就職率の悪化に対応して同労働局は、県内十一の職業安定所に配置した専門担当者などを通じて卒業生の就職活動を支援

茨城県牛久市は二十

レジ袋有料化 牛久市も実施 7月から

茨城県牛久市は二十

新バイオ燃料で地域活性化

茨城大 日立市や酒造と研究会

茨城大学は二十日、イノールを作り、地域活性化につなげる産官学の研究会が発足したと発表した。茨城大や日立市や阿見町、酒造会社などが参加し、栽培方法やエタノール生産の技術開発、燃焼評価などに取り組む。耕作放棄地の有効活用にもつながると見られており、



茨城大学が栽培したイネ科の植物「スイートソルガム」

バイオエタノールはトウモロコシなどを原料とするバイオ燃料。国内でもカソリンにバイオエタノールを混ぜた混合燃料の販売が始まっている。

スイートソルガムはエタノールの生産効率がサトウキビなどと変わらないうえ、生育が早く、低温に強いといった特長があるという。

これまで茨城大の農学

部と工学部の教員らが研究を進めてきた。三月に農学部内に新たな研究拠点が完成したこともあり、外部と連携して研究会を作って実用化に向けた本格的な研究を始めることになった。

農学部の敷地や阿見町の耕作放棄地でスイー

中小向け貿易無料相談

つくば研究 中国輸出など支援

茨城県などが出資する第三セクター「つくば研究支援センター」(つくば市)は五月二十日から、中小企業向けに無料の貿易相談を実施する。相談は五月から二〇一〇年三

輸出に関する手続きや契約、トラブルに対する助言のほか、海外法人設立などについても対応する。中小企業診断士の資格を持つアドバイザーが交代制で相談に乗る。

二〇〇八年度も五回の貿易相談を実施し、県内十四社から十五件の相談があった。

中小企業やベンチャー企業が海外へ事業を拡大しようとする場合、契約体系や販路開拓などが課題となっており、事前に相談を受けることでトラブルを防ぐ。

相談会は五月二十日、七月十五日、九月十六日、十一月十八日、一〇年一月二十日、三月十七日の計六回。いずれも午後一時から午後五時まで。問い合わせは同センター研究支援部(0290・858・6020)まで。

のが特徴で、稼働時間



大型SC集まって!

茨城県桜川市は二十日、北関東自動車道桜川筑西インターチェンジ(IC)周辺の企業誘致を促すため、一部地域の用途を変更したと発表した。

対象は国道50号沿いの長方地区。工業専用地域として利用していた約三十五分の土地を、商業施設や流通センターなどを建てることのできる準工業地域などに変更した。桜川市は幅広く企業に進出を呼びかけていく考え。

長方地区は約三十年前に工業専用地域に指定した。用途が工場や倉庫にほぼ限定されることや、北関東自動車道が開通するまで近くにICがな

桜川市、準工業地域に変更

茨城県桜川市は二十日、北関東自動車道桜川筑西インターチェンジ(IC)周辺の企業誘致を促すため、一部地域の用途を変更したと発表した。